

日本森林学会2022年度 「林業遺産」に2件が選定されました

日本各地の林業は、地域の森林をめぐる人間の営みの中で編み出され、明治期以降は海外の思想・技術も取り入れながら、大戦期の混乱を経て今日に至るまで、多様な発展を遂げてきました。日本森林学会では、学会100周年を契機として、こうした日本各地の林業発展の歴史を、将来にわたって記憶・記録していくための試みとして、「林業遺産」選定事業を2013年度から開始しました。10年目と

なった2022年度は、林業遺産地区推薦委員の協力を得ながら、深町加津枝林業遺産選定委員長（京都大学）を筆頭に、9名の選定委員によって選定を進め、2023年5月31日の日本森林学会定時総会において公表されました。同時に、認定証・記念品が各件の所有者・管理者等に贈呈されました。今年度から認定証のデザインも一新され、岩手県の南部アカマツを使用したものになっています。

今回新たに選定された2件は、石川県、和歌山県から推薦されたものです。石川県の「能登のアテ林業」は、林業景観・技術体系・林業記念地の複合的な林業遺産、和歌山県の「北山川の筏流し技術」は現代にも伝えられている技術体系の林業遺産となっています。今回の選定を通じて各々の林業遺産が未長く記憶・記録され、あるいは発展していく、未来の社会を支える歴史の力となっていくことを願っています。

これまでに選定された林業遺産は50を数えました。これらは雑誌「森林科学」や、森林学会のウェブサイトで公開されています。いずれの林業遺産も将来にわたって記憶・記録していく価値が認められたものです。皆さんも実際に足を運んでみてはいかがでしょうか。

林業遺産についての情報はこちら

[https://www.forestry.jp/forestryheri](https://www.forestry.jp/forestryheritage/)

tage/



新たな選定証

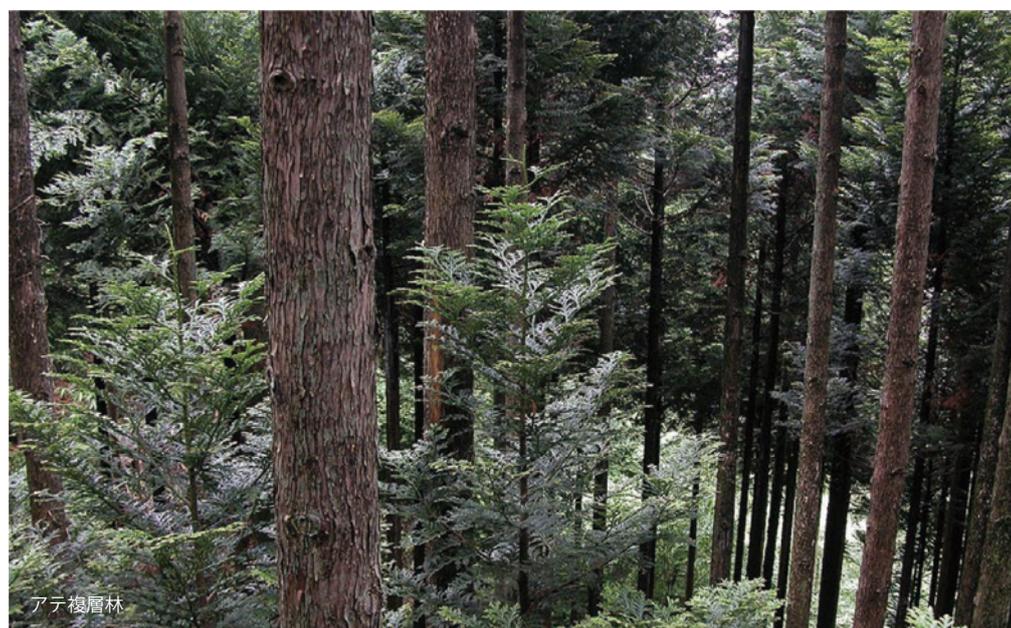


北山川の観光筏下り



★ 2022年度の「林業遺産」 ★

登録番号	49	50
林業遺産名	能登のアテ林業	北山川の筏流し技術
認定理由	能登地方にみられるアテ（ヒノキアスナロ）の林業景観とそれを維持・管理する特有の技術体系は、江戸時代中期から発展してきた伝統的なものであり、現存する古木とともにその姿を今に伝えているため。	木材流送の技術として発展した筏流し技術が、現在でも観光筏下りとして保存・継承されており、伝統的な筏流しの姿を今に伝える全国唯一の例として、熊野地域の林業の歴史と伝統を今日に伝えているため。
分類・形式	林業景観、技術体系、林業記念地	技術体系
成立年代	江戸時代中期	16世紀前半
所在地	1, 林業景観 輪島市、穴水町、七尾市、能登町、珠洲市 2, 技術体系 石川県能登地方 3, 林業記念地 石川県輪島市門前町浦上10の21番1地	和歌山県東牟婁郡北山村大字大沼87
所有・管理者	1, 林業景観 能登森林組合 輪島市 穴水町 七尾市 能登町 珠洲市 2, 技術体系 石川県農林総合研究センター林業試験場 3, 林業記念地 泉家	北山振興株式会社



アテ複層林



沢筏流業（珠洲市岩山町）



北山川の筏流し 昭和10年頃